



社会福祉法人福岡市社会福祉協議会

博多区社協事務所 (博多区社会福祉協議会)

福岡市博多区博多駅前2-8-1 博多区役所6階

TEL: 092-436-3651 FAX: 092-436-3652

Eメール: hakataku@fukuoka-shakyo.or.jp

福岡市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
ここっと

認知症になっても、安心して地域で暮らし続けるために

御供所地区

～認知症高齢者声掛け体験～

御供所地区では、令和7年11月15日に、御供所公民館で認知症高齢者声掛け体験を行ないました。これは、御供所地区社協主催の「ごくごくカフェだらん」で実施されたもので、カフェの参加者の他、高齢者等を見守るボランティアや民生委員・児童委員など、46人が集まりました。

当日は、福岡医健・スポーツ専門学校の学生による認知症についての講座が行なわれました。その後、普段の生活の中で認知症と思われる人が困っている場面を事業所ネットワーク※「おいさ博多」有志が演じ、参加者が実際に声を掛ける体験を行ないました。

参加した皆さんは、講座で学んだことを体験で実践しながら、高齢者役を不安にさせることなく、丁寧な声掛けを行なっていました。

参加された皆さんからは「1人で解決しなくても良いことがわかったので、声掛けのハードルが低くなった」「今回の体験を、まずは身近な方に対して役立てるようにしたい」などの感想が寄せられました。

カフェのスタッフである御供所公民館の磯田主事は、「今回の体験を活かして、認知症かなと思われる人にさりげなく声掛けし、皆で助け合える御供所地区になればと思う」との想いを語ってくださいました。

※事業所ネットワーク

医療・介護・障がいなどの事業所が連携し、地域支援を行なう自主的ネットワーク



▲学生による声掛けの様子



▲参加者の声掛けの様子(廊下)



▲参加者の声掛けの様子(バス停)

那珂南校区

地域でつながる憩いの場「なかないいカフェ」

那珂南校区社協では、地域の皆さんが気軽に集える場所として、「なかないいカフェ」を那珂南公民館で開催しています。毎月1回、コーヒーやお茶菓子を楽しみながら、参加者同士やボランティアスタッフとの交流が生まれています。

令和7年11月17日は、事業所ネットワーク「なかよしさん博多」に参加している福岡脊椎クリニックの善明(ぜんみょう)氏をお招きし、「本当は怖い頸椎の病気と予防方法」をテーマにお話しいただきました。

参加者からは、「このカフェに来て、おしゃべりするのが楽しみです」などの声が聞かれました。

「なかないいカフェ」では、これからも楽しい時間を過ごしていただけるよう、ボランティアスタッフが趣向を凝らしたイベントを企画しています。



▲なかないいカフェの様子

板付北校区

高齢者見守りマップづくり

～見守りマップづくりに校区の消防団が参加しました～

板付北校区社協では、令和7年10月16日に、見守りを実施している自治会・町内会長、民生委員・児童委員、ボランティア、地域の消防団が参加して「高齢者見守りマップづくり」を行ないました。

マップづくりでは、町内ごとに集まり意見を出し合いながら、見守りが必要な方の情報を共有・可視化しました。

今回初めて、消防団が参加し、日常の見守り活動において新たな視点が加わり、平常時の見守りだけでなく、災害時の安否確認の声かけなど、地域の安心感を高める見守り活動に繋がりました。

参加者からは「消防団の方々の意見はとても参考になり、参加してくれてよかった」との声が聞かれました。



▲マップづくりの様子

ラン とも

RUN伴2025 開催しました!

「RUN伴」は、年に一度開催している認知症の啓発イベントで、福岡市内で令和7年11月1日に開催しました。

博多区では、板付公民館とユトリア博多の2カ所から同時にスタートし、学生や医療・福祉関係者など、多様な立場の人たちが、認知症啓発のイメージカラーであるオレンジのグッズを身に着け、中継地点となった福祉施設を經由してゴールの那珂公民館を目指しました。

ゴール後、那珂公民館では、認知症家族の会「さる〜んパス」から講師をお招きし、家族の思いや当事者の尊厳についてのお話を伺いました。また、麻生福祉&保育専門学校の学生による認知症予防の脳トレや発表が行なわれました。

「認知症であっても、そうでなくても、安心して暮らせるまちづくりを応援しよう」を合言葉に、参加者同士の交流も深まりました。



▲スタート式の様子

ご寄付ありがとうございました

■ 日蓮宗 本興寺 様

地域福祉活動の推進のために使用させていただきます。

また、菓子等もご寄付いただき、博多区内の子ども食堂等に配布いたしました。

